

第6回吐山地域学校規模適正化検討協議会が1月18日（月）に開催されました。

会議の概要

今回の協議会では、吐山小学校後援会役員出席のもと、これまでの協議や経緯等について、教育政策課および事務局から説明が行われた後、質疑応答が行われました。

吐山地域の学校支援は後援会があって成り立っています。学校規模適正化はじめ教育環境が転換期にある中、これからの後援会活動の進め方も変わらざるを得ないかもしれません。

教育政策課からは、「今月、教育振興基本計画を策定し、めざす子ども像の具体的な姿を示したところである。これを踏まえて都祁の特色を出していただいて中学校区単位でビジョンを掲げ、9年間の意義ある教育活動を展開したい。」また、「現在の都祁小学校の場所に4小学校を統合再編し、立地や学校規模を生かした『都祁ならではの』特色ある教育活動の展開が可能。しっかりと地域連携の強みも生かしていただきたい。」との考えが示されました。

事務局からは、最近の吐山小学校区における地域と学校との連携について紹介するとともに、「少子化が進んでも、学校が統合再編ということになっても、土日祝、夏休み等、地域で子どもを育む機能は欠かせない。後援会をはじめとする学校との連携について考察する必要がある。」と投げかけがありました。

質疑・意見交換では、「再編しようとする学校の、都祁ならではの小中一貫教育計画は誰がカリキュラムを作るのか」、「地域と共にある学校づくりについて、地域はどういうテーブルで話し合っていくのか」、「統合再編する場合は、準備段階のロードマップが必要だが、まだ、論議はされていない。地域支援に係る各コーディネーターで検討いただくことも必要。」などの意見が出されました。

これらの課題を、都祁地域の共通のテーマとして話し合っていくことが今後必要です。

学校規模適正化等について（市教委）

- ・「都祁ならではの魅力ある学校づくり」がキーワードであり、4小学校の統合再編による学校規模を生かした教育活動の展開が可能である。また、地域と密接なつながりを生かした校外学習や体験活動など、地域の育む力を生かしながら、都祁の特色を出していく。
- ・「小中一貫教育」とは、小学校教育と中学校教育の独自性と9年間の連続性を踏まえた一貫性をもった教育であり、形態が、施設一体型であっても分離型であっても、教員がどのように取り組むかが大切であると認識している。
- ・中学校3年生（15歳）の子ども像をもち、そこから逆算しながら各学年の目標を立てた教育をすすめていきたい。
- ・「21世紀の社会をたくましく生き抜く人材の育成」を目標に、今までの「教育ビジョン」に代わる「奈良市教育振興基本計画」を策定した。この計画に示している具体的な「めざす子ども像」を参考に都祁の特色を加えていただき、中学校区単位でビジョンを掲げ、ゴールをしっかりと共有し、9年間の意義ある教育活動を展開したい。
- ・地域との連携や協力が必要である部分は、これまでどおり継続していただきたい。
- ・地域の捉え方として、小学校区単位ではなく、中学校区単位への転換も考えていただきたい。

後援会活動（地域支援等）の現状と課題（事務局）

- ・都祁地域の学校規模適正化について、一昨年6月に市教委から、過小規模解消を図るため、各小学校区に統合再編に向けて検討協議会の設置要請があった。吐山は「統合再編のねらいは、数合わせではない」として、市教委と検討内容についての調整に時間を要したが、「少子化時代の活力ある学校づくり・子どもの教育環境づくり」を目的に話し合うこととして昨年5月に検討協議会を立ち上げ、今回で6回目の開催となる。これまでの話し合いの内容は、ニュースで配布させていただいているとおり。

<参考資料：吐山における学校と地域の連携の近年の様子>

- ・吐山における地域連携として、総合学習支援（昔あそびなど）、誰でも参観（開かれた学校づくり）、登下校見守、愛校作業、放課後子ども教室、敬老会参画、地域親睦の集い、夏休みラジオ体操、学童保育（延長保育の支援）など様々な取組を進めてきた。
- ・他の地域で取り組んでいるが、吐山では取り組んでいない取組（図書室開放、図書の補修や読み聞かせ、地域行事への参画（クリーンキャンペーン、避難訓練など））もある。
- ・統合再編された場合、土日・夏休みなど、吐山は吐山で子どもの育みを考えていかないといけない。今は、学校施設・設備の無償貸与を前提に地域支援は成り立っている。

質疑・意見（○:出席者 ⇒:市教委 △:事務局）



- 平成29年4月に統合再編校開校という内容を協議会ニュースで読んだが、この協議会の中での話しは進展していないように思う。（統合再編の）時期が決まっているのであれば、学校の校長、地域の人、代表者が集まって、具体的に決めていかないと意見反映が間に合わないのではないかと。
 - ⇒ 市教委としては、平成29年4月開校を目途ということは申し上げているが、具体的な話がまだできていない。「こんな学校にしましょう」ということは市教委から押し付けるものではなく、地域の方々との話し合いの中からできてくるものであり、今後、具体的な議論の必要がある。
 - △ いろんな課題を関係者の総意で克服できるかどうか重要。「都祁ならではの学校」ということに関しては、4校区の代表が集まる機会が必要になる。学校経営の基本テーマであり、市教委に舵取りをしてもらいたい。
 - 校舎のことに目がいきがちだが、4校の児童が一つの場所に集まって教育が開始されるとなると、それぞれの学校の教科のカリキュラムなど、統合再編に向けてどのように進めるのかや、放課後子ども教室についても何を取り入れるのかなど、事前の準備が相当必要になると思うが、そのあたりの見通しや経験等あれば教えて欲しい。
 - ⇒ 直近では、柳生中学校と興東中学校の統合再編があった。教育政策課や地域教育課など、市の担当課が関わりながら、共通理解の上に納得いただくよう調整を進めてきた。今後、都祁地域でも4地域の活動をどのように残していくべきかなど、コーディネーターも加えた協議が必要であるので、会議の場を設定させていただきしっかり調整していく。
 - 統合再編になるとバス通学となるので、水曜日の放課後教室開催は難しいのではないかと。
 - 土日、夏休みだけという発想に立つのも不自然。学校では体験学習的な指導はできても、“吐山っ子”としての育み方は“吐山”でないとできない。
 - 少年少女ソフトボール、太鼓踊り、放課後教室など、コーディネーターで話し合う必要がある。
 - △ こうした活動についても、ブラスバンドなどのように4校がまとまった方がよいものと、今までどおりがよいものが出てくる。4校の学校、保護者、地域が同じテーブルで話し合うことが必要。
- 会長 校舎に対する4校区の保護者や地域の意見に対する明確な回答（時期、できない場合は理由と事情）を、教育総務課または市教委の関係各課に要望しており、回答があれば、皆さまに報告する。

今後について

◇第7回学校規模適正化検討協議会の開催日時、テーマについては、改めて委員の皆さまにお知らせします。

お問い合わせ先：幹事〔中島、保山〕／奈良市教育委員会事務局教育政策課（TEL0742-34-5386）